

(1) 出題方針

国語の出題は、現代文一題、古文一題の形式を取ることが多いが、2023年度は現代文二題の形式を一つ出題した。現代文二題の場合でも、現代文一題の場合と同程度の分量・難易度となるようにした。現代文・古文ともに、文章を読んで選択肢で解答する設問が5~6問と、記述式の設問が1問である。記述式は現代文が40字、古文が30字で答える形式となっている。配点は現代文90点、古文が60点であり、試験時間は75分である。これらの構成は、例年ほぼ同じものである。

現代文は、いずれの日程でも論説の文章(随想風のものも含む)から出題しており、例年の傾向を踏まえている。論説で取り上げる素材は、文学・文化・芸術・社会学・自然科学など多岐にわたる。文章の長さは、6000字前後程度のもので、比較的長文といえる。

大学では、専門的な学術研究を行うために基本的な読解力を身につける必要がある。大学での学びは、定められた教科書の学習ではなく、多くの分野の文献を読み、それらを理解し、まとめて、自分の研究に活かす形をとることが求められる。そのためには文章の分野を問わず、さまざまな文献から情報を吸収できる素地が必要となる。したがって、比較的長文の読解を通して、その力量を判定したいと考えている。長文の文章全体からの的確にポイントを読み取る能力や、反対に細部の意味を把握する能力を確かめたい。

古文は、上代から近世までの文献から、説話・物語・随筆・日記などのさまざまな分野から出題している。文章の長さは、800字~1200字程度である。著名でないものからの出題もあるが、内容は明確なものを選んでおり、難問にならないよう十分に配慮している。

大学では、各分野の研究において古典的な文献の読解も求められる。その意味で古文の読解力は、大学での学術研究においても必要なものといえる。そのための能力を高校での古文の学習を通して身につけているかを確認するのが、試験の目的である。

現代文・古文ともに、語句の表現や文脈を正しく理解しているか問うことを重視している。選択肢の設問では、語句の知識を踏まえて、文脈の要点となる箇所を質問している。記述式の設問では、文章全体を的確にまとめ文章化することを求めている。

(2) 解答状況および解説

設問の順序は、おおむね、接続詞や個々の語句の理解に関わるものからはじまり、次に文章の展開を踏まえたもの、そして全体をまとめたものへと続き、最後にそれまでの設問内容を押さえつつ全体の内容をまとめる記述式設問が配列されている。このような配列は、きちんと本文の内容を把握してもらうためのもので、基本的に例年同様になっている。選択肢設問では、「奇問」といわれるようなものは出題しない。的確な読解によって、しっかりと解答できるようにしている。したがって、合格者の平均得点率は高く、現代文で80%程度、古文で75%程度が、ここ数年の傾向といえる。

現代文の設問では、接続詞の挿入などはきわめて正解率が高い。確実に文脈の続き具合を把握して解答してほしい。正解率が低い傾向は、やはり文章全体あるいは広範囲にわたる内容の要旨をまとめる設問である。論旨のポイントをしっかり押さえることが不可欠といえる。また、各日程において、文章の内容に合致するものを一つあるいは複数選ばせる設問を出題することも多い。選択肢とそれに対応する本文中の文章を十分比較検討し、的確に判断してほしい。

古文では、語句の解釈に関わる設問が出題される。辞書的な語句の意味では正解率がもちろん

高いのだが、文脈を踏まえた語句の解釈を求めると正解率が急に落ちてしまう。基本語句の習得に加え、文脈を把握する能力も求めている。また、和歌が絡んだ設問の場合も正解率が低くなる傾向が見える。和歌の技法も踏まえ正確に解釈する能力を養っておいてほしい。

記述式の設問では、文章全体から重要な内容を、現代文なら三つ程度、古文なら二つ程度を踏まえて、文章としてまとめあげる必要がある。目立った誤答としては、内容の一部しか含まないものや、設問の語句を単に引用しただけのもの、解答文としてまとまりがないもの、文脈がねじれてしまっているものが多い。また、誤字・脱字などの不備は、減点対象となるので注意してほしい。字数を超過しても 0 点にはならないが、大きな減点となる。最後に、全体的なニュアンスが合っているだけでは、高い得点には繋がらないので、特に注意してほしい。

(3) 受験生へのメッセージ

現代文では、日頃からさまざまなジャンルの文章を積極的に読み、比較的長い文章にも慣れておいてほしい。設問として出題する文章は、内容のあるものを選んでいく。正確に論理展開を把握できれば、全体の要旨をきちんと理解できる。文章のキーワードを見つけ出し、それを用いて全体の要旨を 40 字でまとめるトレーニングは有効である。

古文では、基本的な古語・文法の意味をきちんと理解しておくことがまず大切である。なお、漢文も融合問題の一部として出題される可能性もあるが、その場合、難問にならないようにきちんと配慮している。

現代文・古文とも、奇をてらうことなく、十分に練った設問を用意している。存分に、実力を発揮してほしい。

◆国語◆ 出題の意図

102	出題の意図
一	民俗学という学問領域の目的や特質を論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者が「民俗資料」についてどのように考えているか、文章化することを求めた。
二	平安時代の物語から、都近くの山のうつほで母子が生活している場面を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、文章の主旨が理解できているかを確認するために、母の取った行動の理由について文章化することを求めた。
103	出題の意図
一	古代ローマと日本を比較して論じた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、日本の「武士道」とローマの「父祖の威風」の関係について筆者がどのように考えているか、文章化することを求めた。
二	近世の仏教説話から、長谷寺観音の靈験譚を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に主人公が感嘆したことの具体的内容について文章化することを求めた。
104	出題の意図
一	動物行動学者の研究を基に、人間と動物の共感について述べた文章を出題した。文脈の理解等を問うことで読み解く力を確認した。
二	江戸時代の宇宙論について述べた文章から出題した。基礎的な知識を問い、最後に、筆者が司馬江漢を「科学コミュニケーター」と捉えた理由について具体的に文章化することを求めた。
三	中世の軍記物語から、人物の才能について語った文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、登場人物が身を滅ぼした原因について具体的に文章化することを求めた。
105	出題の意図
一	政治人類学者の研究を基に、農業と国家の起源について述べた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、人類の歴史を筆者がどのように考えているか、「非国家空間」との関わりから文章化することを求めた。
二	中世の説話集から、寺の鐘が盗まれた事件について語った文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、この場面に対する作者の評価について具体的に文章化することを求めた。
106	出題の意図
一	近代化によって見え難くなった地域について論じた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、「都市郊外」という環境がもたらす認識の影響について筆者がどのように考えているか、文章化することを求めた。
二	近世の俳文から、花瓶の台について述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者があやかりたいと思っているものの内容について具体的に文章化することを求めた。

107	出題の意図
一	作庭家が自然と人間のかかわり方について述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者が考える「自然と人間の関係の在り方」について文章化することを求めた。
二	室町時代の物語から、行方不明の若君を乳母が探し出す場面を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、乳母の心情に関わる具体的状況について文章化することを求めた。